

試験研究成果普及情報

部門	資源管理・増養殖	対象	研究・普及
課題名：簡易的な藻場実態把握手法の確立			
[要約] 水中の簡易な観察手法として、ビデオカメラ（GoPro 社製 HER05 Black）をマウントに取り付け、船上から垂下して撮影する手法を確立した。本手法は令和4年度に水産事務所に技術指導し、各地先の藻場モニタリングに導入され始めている。			
キーワード 藻場実態把握、簡易手法、水中カメラ			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター	生産技術研究室
	協力機関	-	
実施期間	2020年度～2022年度		

[目的及び背景]

近年内房沿岸域を中心に千葉県沿岸では藻場消失域が拡大している。現在のところ藻場の消失範囲が局所的な外房沿岸域においても、藻場消失の兆候を早期に把握し、原因に対応した対策を講じることができるよう藻場の分布状況を把握しておくことが重要である。現在藻場の現況把握は潜水による観察を行っているが、多大な時間と労力を要するため、短時間で広範囲を観察可能な簡易的な実態把握手法を確立する。

[成果内容]

- 1 水中の簡易な観察手法として、ビデオカメラ（GoPro 社製 HER05 Black）をマウントに取り付け、船上から垂下して撮影する手法を確立した（図1）。
- 2 水中カメラの垂下撮影では概ね全体の状況を捉えられ、海藻類の種組成、アラメ・カジメの成体・幼体の判別、大型褐藻類の被度、植食生物の食痕及び子のう斑の有無を把握することができ、藻場実態の把握が可能である精度である。（図1）。
- 3 撮影手法としては、藻場を上から及び海底付近からの2つの視点から撮影することで広範囲の藻場実態とアラメ・カジメ幼胞子体を含む種組成の把握が可能である。
- 4 本手法を用いることで、従来の潜水調査と比較して大幅な省力化を図ることができ、短時間で広範囲の藻場の実態把握が可能になると考えられる。（表1）。

[留意事項] なし

[普及対象地域] 内房海域、外房海域

[行政上の措置] なし

[普及状況] 令和4年度に水産事務所に技術指導し、各地先の藻場モニタリングに導入され始めている。

[成果の概要]

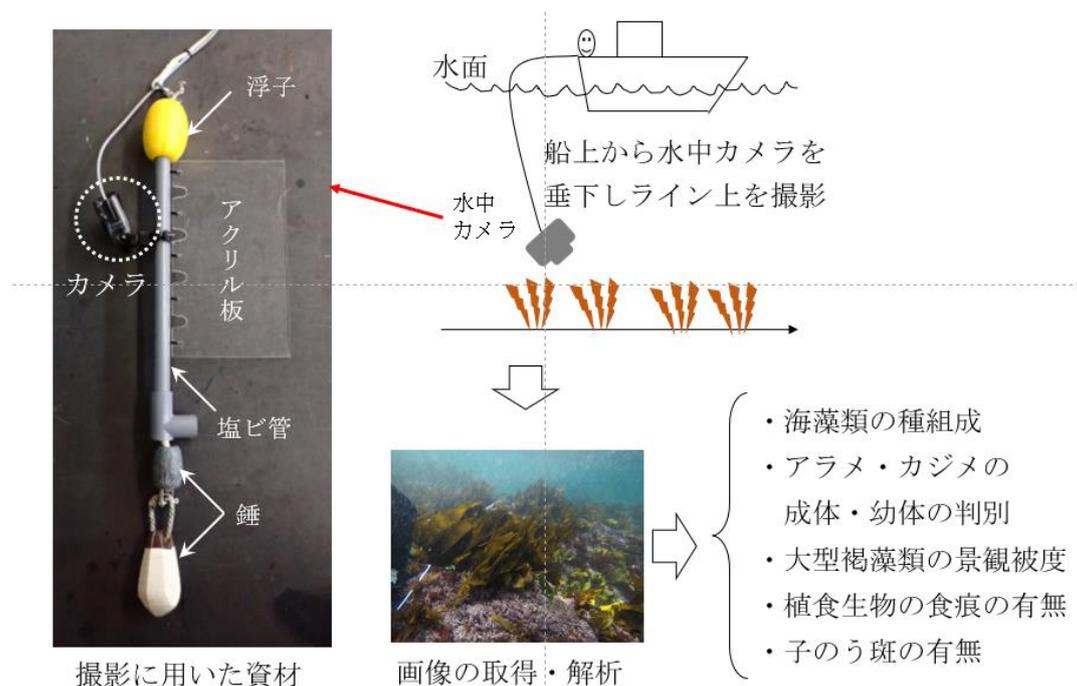


図1 簡易的な藻場の観察に用いる資材及び調査のイメージ

表1 調査にかかる労力の比較

		従来法	簡易手法
		潜水	船上からの 水中カメラ垂下
必要人員	操船	1名	1名
	調査員	2名	1名
所要時間		40～50分/50m	5～10分/50m
探索範囲		小	中
情報取得 の可否	種組成	可	可
	被度	可	可
	食痕	可	可
	子のう斑	可	可

[発表及び関連文献] なし

[その他] なし